

科目名	倫理学					担当教員	清水 俊		
-----	-----	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	選択・必修						必修	
担当教員の実務経験	大学や専門学校で倫理学・哲学を担当し、またフィールドワーク調査してきた経験を活かし、専門家に必要な倫理や論理的思考を教えることができる。										
授業概要	基礎から倫理について学び、倫理の必要性や考え方、現代の問題への応用について学習する。										
到達目標	倫理的な考察力を身に着ける。新しい課題に直面した時、自ら考えられる論理的判断力を身に着ける。										

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	嘘をつくこと(教科書第1節)	カントの考えなどから、「常にすべきこと」という義務について学ぶ。
2	功利主義(2節)	功利主義的な考え方と、その問題点について学ぶ。
3	葉の配分方法(3節)	「誰かしか助けられない」ような問題について、自ら考えて答えを出してみる。
4	エゴイズム(4節)	エゴイズムがどこまで許されるのか、エゴイズムとは何かについて考える。
5	幸福の計算(5節)	功利主義の習性案について学ぶ。
6	判断能力と価値判断(6節)	判断能力とは何か、それをだれが判断できるのかについて考える。
7	価値判断と事実判断(7節)	価値がどのように導き出せるかについて学ぶ。
8	正義の原理(8節)	正義の原理が定められるかどうかについて学ぶ。
9	思いやりからの道徳(9節)	思いやりだけで道徳が成立するか考える。
10	囚人のジレンマ(10節)	正直者が損をしないためにはどのようにしたらいいか、それが可能かを考える。
11	愚行権(11節)	愚かな行為をする権利はどこまであるか、愚かな行為に対してどこまで介入していいのかについて考える。
12	貧しい人への義務(12節)	貧しい人、困っている人に対して助けるべきか、誰が助けるべきかについて考える。
13	未来の人への義務(13節)	未来の人々に対する義務のあり方について学ぶ。
14	正義の変化(14節)	時代や文化による正義の違いについて考える。
15	科学の限界(15節)	科学の発展に限界を設けるべきかどうかについて考える。

準備学習(予習復習) の 具体的な内容	教科書を読んでおく。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験(80%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート(20%) <input type="checkbox"/> 課題(%) <input type="checkbox"/> 発表(%) <input type="checkbox"/> その他()
教科書	現代倫理学入門(講談社学術文庫)
参考書	
授業の留意点・備考	

科目名	対人関係論						担当教員	山田 勝久					
学科	理学療法学科		年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習	
区分	基礎分野	教育内容		科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		精神保健福祉領域の対人援助実務に携わった経験をいかし、対人援助職として身につけておくべき基本的態度や知識について講義・演習を行う。											
授業概要		自分の感情・思考・行動パターンを知り、自己の心のパターンを知る。さらに、対人援助職として対象者との関係性を構築していくために求められる、援助的態度と対話のスキルを習得する。											
到達目標		1. 自身の自我状態を知る 2. 自身の思考・コミュニケーションパターンを知り、アサーティブな表現手段を習得する 3. 対人援助職として求められる基本的態度を習得する 4. 対人援助職として求められる対話の技術を習得する											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	オリエンテーション 自分の心を知る①				TEGを用いて学生自身の自我状態を理解する								
2	自分のコミュニケーションパターンを知る				交流分析の手法を用いて様々なコミュニケーションパターンを理解する								
3	自分の心を知る②				ストロークについて学ぶ。 OKグラムを用いて、自身の「基本的構え」を理解する								
4	自分の心を知る③				「自己認識ゲーム」を通して自己理解を深めることができる								
5	アサーションと自己表現				自己主張のパターンを理解し、アサーティブな自己主張について学ぶ								
6	「怒り」の扱い方				「怒り」の構造を理解し、怒りを上手に表現する方法を学ぶ								
7	グループワーク				グループワークを通して、建設的な自己主張のあり方を演習する								
8	援助的態度について				対人援助職として求められる基本的態度（受容・共感・傾聴）を学ぶ								
9	上手な聞き方①				面接で求められる上手な聞き方の技術を学ぶ								
10	上手な聞き方②				面接のロールプレイを通して、上手な聞き方を演習する								
11	対話について				対話の意義を理解し、様々な対話の技法を学ぶ								
12	ダイアローグ実践①				様々な技法を用いた対話を演習する								
13	ダイアローグ実践②				様々な技法を用いた対話を演習する								
14	社会人基礎力としてのコミュニケーション				社会人として求められる基本的なコミュニケーションスキルについて学ぶ								
15	授業の総括				これまでの授業を振り返り、対人援助職として求められるコミュニケーションスキルについて考える								
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業内容を振り返り、理解するための自己学習に努めること。											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (10 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		なし ※教員が資料を準備します											
参考書		なし											
授業の留意点・備考		グループワークなど参加型の授業の場合は、積極的に討議に参加すること。											

科目名	総合教育Ⅰ						担当教員	有働 正二郎 山田 勝久		
-----	-------	--	--	--	--	--	------	-----------------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習								
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験																			
授業概要	専門学校における学習の意義や心構え、基本的なスタディースキルを習得することを狙いとし、ここで得られた基本的学习スタイルは、全ての専門教科・専門基礎教科を学ぶための共通技能となる。																		
到達目標	専門学校における学習の意義について説明できる。授業を受ける上で心構えについて説明できる。効果的な集中の仕方・記憶の方法について実践できる。効果的な文献の読み方、専門書の活用の仕方、学習補助ツールの活用について実践できる。効果的な自宅学習の進め方・ノートの取り方について実践できる。																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション (有働)	専門学校における学習の心構えについて概略を理解した上で、学習習慣についてしっかりと学ぶ
2	学習法 (有働)	自己学習の進め方や集中の仕方及び記憶力トレーニングの方法について学ぶ
3	学習法演習 (有働)	実際に記憶力トレーニングの演習を行う
4	レポートの書き方とルール (有働)	レポート表紙の書き方やレポート提出のルール、レポート表紙規定やレポート本文規定について学ぶ
5	図書室の利用法 (有働)	基本的な図書館の利用の方法について学ぶ。
6	文献検索の方法 (有働)	インターネットを活用した文献検索の方法について学ぶ
7	雑誌の活用法 (有働)	雑誌の活用法について学び、興味ある内容をまとめる演習を行う
8	文献の読み方・専門書の活用 (山田)	種々の文献や学習補助ツールの活用法を学び、演習する
9	ノートの取り方① (山田)	授業におけるノートテイクの仕方について学び、演習する
10	ノートの取り方② (山田)	授業におけるノートテイクの仕方について学び、演習する
11	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方① (山田)	自宅学習における学習ノートの活用について学び、演習する
12	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方① (山田)	自宅学習における学習ノートの活用について学び、演習する
13	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方② (山田)	自宅学習における小テストの活用について学び、演習する
14	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方② (山田)	自宅学習における小テストの活用について学び、演習する
15	学習習慣について (山田)	自身の学習習慣について振り返り、問題意識を持つ

準備学習(予習復習) の 具体的な内容	ここで学んだ内容を、日々の学習に活かすこと
成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (90 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	なし ※資料は教員が準備します
参考書	なし
授業の留意点・備考	参加型の授業の際は、学生同士で積極的に意見を交わすこと

科目名	総合教育Ⅱ					担当教員	田畠 博敏		
-----	-------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義							
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解				選択・必修	必修										
担当教員の実務経験	約35年にわたり、大学で「哲学」や「論理学」等の人文系科目的教育研究に従事した経験を生かして、文章表現・読解の指導ができる。																	
授業概要	自分の意見や、調べた情報を、的確な文章に表現できることを目指す。そのために、語彙・文法の理解、資料分析の方法、文章読解の要点を学ぶ。手紙文や意見文の例を学び、自分で文章を書く練習をする。																	
到達目標	本講義により、受講者は、日本語の文章を正しく読解し、その内容をわかりやすい日本語の文章に表現できるようになる。																	

授業計画

回	テーマ(順不同)	授業内容(順不同)
1	語句及び語彙	文章に出てくる語句・語彙の意味を正しく知る
2	文法	文法的に正しい言い方・表現法を学ぶ
3	資料分析	表やグラフ等の資料の分析方法を学ぶ
4	文章読解	文章読解の基本を学ぶ
5	文章読解	文章読解の技術を深める
6	手紙文	手紙文についての基本知識を学ぶ
7	意見文	意見文を読解し、自分で書いてみる
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習(予習復習) の 具体的な内容	参考書の指定部分を予め読む。授業内容を深めるため復習する。
成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10 %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (90 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	基礎から学べる！文章力ステップ 文章検3級対応：公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト3級：公益財団法人日本漢字能力検定協会
参考書	基礎から学べる！文章力ステップ 文章検3級対応：公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト3級：公益財団法人日本漢字能力検定協会
授業の留意点・備考	国語辞典(電子書籍で可)を持参すること。自分の考えを他者に伝えるにはどうすべきか、常に考えること。

科目名	解剖学演習						担当教員	宮崎 慎二					
学科	理学療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習	
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験													
授業概要		解剖学演習は解剖学等で学んだ人体の構造について、教科書等の平面上で覚えた知識を立体的に3Dへ変換していく科目である。主に人体模型を用いたり、体表解剖学として体表面からの観察やこつや筋を触診しながら、それぞれの位置関係を明確にしていく。											
到達目標		人体の構造を三次元的に理解しながら、ランドマークを正確につけることができ、骨や筋の触診											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	オリエンテーション				授業の進め方、学習のポイント、注意事項等								
2	ランドマーク				ランドマークとは。その意義、理学療法との関係について								
3	肩関節周囲①				肩関節周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
4	肩関節周囲②				肩関節周囲の筋の特徴と触診								
5	肘関節周囲①				肘関節周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
6	肘関節周囲②				肘関節周囲の筋の特徴と触診								
7	手関節・手部周囲①				手関節周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
8	手関節・手部周囲②				手関節周囲の筋の特徴と触診								
9	骨盤～股関節周囲①				骨盤周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
10	骨盤～股関節周囲②				骨盤の筋の特徴と触診								
11	膝関節周囲①				膝関節周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
12	膝関節周囲②				膝関節周囲の筋の特徴と触診								
13	足関節周囲				足関節周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
14	脊柱・胸郭				脊柱・胸郭のランドマーク、骨学的特徴の触診								
15	まとめ				総括								
準備学習(予習復習)の具体的な内容		触診には、指先の感覚の鍛錬が必要。モノに触れ、感じ取る練習を行ってください。											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW											
参考書		標準理学療法学・作業療法学 解剖学 医学書院											
授業の留意点・備考													

科目名	生理学 I					担当教員	中西 宏之		
-----	-------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義								
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験		医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに看護学科での解剖学、生理学の講義に係わった経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。																	
授業概要		生理学は生命活動のしくみを解き明かすこと目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。																	
到達目標		生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	細胞の構造と機能①	細胞膜の機能、細胞内小器官を学ぶ
2	細胞の構造と機能②	静止電位、活動電位の発生メカニズムを学ぶ
3	血液①	血球の組成、赤血球・白血球の役割を学ぶ
4	血液②	血液の凝固・線溶、血漿成分、血液型を学ぶ
5	血液③	非特異的生体防御、免疫反応、Tリンパ球・Bリンパ球を学ぶ
6	血液④	自然免疫・獲得免疫、液性免疫・細胞性免疫を学ぶ
7	心臓と循環①	心臓の構造と働きを学ぶ
8	心臓と循環②	心臓の自動性と刺激電動系について学ぶ
9	心臓と循環③	心電図の記録法と各波形の意味を学ぶ
10	心臓と循環④	心拍出量と血圧について学ぶ
11	心臓と循環⑤	血圧の調節メカニズムを学ぶ
12	心臓と循環⑥	微小循環における物質交換を学ぶ
13	呼吸とガスの運搬①	気道の構造とその役割を学ぶ
14	呼吸とガスの運搬②	呼吸運動と呼吸器気量の分画を学ぶ
15	呼吸とガスの運搬③	ガス交換・ガス運搬を学ぶ

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	呼吸とガスの運搬④	化学受容器と呼吸の調節を学ぶ
17	消化と吸収①	消化管の構造と消化メカニズムを学ぶ
18	消化と吸収②	消化液・栄養の吸収を学ぶ
19	消化と吸収③	消化管ホルモン、消化管の調節を学ぶ
20	消化と吸収④	肝臓、脾臓の構造と役割を学ぶ
21	腎臓と排泄①	腎臓の構造と役割を学ぶ
22	腎臓と排泄②	尿の生成メカニズムを学ぶ
23	腎臓と排泄③	クリアランス、糸球体濾過量、腎血漿流量を学ぶ
24	腎臓と排泄④	蓄尿反射と排尿反射を学ぶ
25	酸塩基平衡①	血漿pH調節について学ぶ
26	酸塩基平衡②	アシドーシスとアルカローシスについて学ぶ
27	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
28	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
29	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
30	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input type="checkbox"/> 課題（%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版：医学書院
参考書		消っして忘れない 生理学要点整理ノート（P.T.O.T必修シリーズ） 羊土社
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれる所以、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。

科目名	生理学Ⅱ					担当教員	中西 宏之		
-----	------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義							
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達				選択・必修	必修										
担当教員の実務経験	医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに看護学科での解剖学、生理学の講義に係わった経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。																	
授業概要	生理学は生命活動のしくみを解き明かすこと目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。																	
到達目標	生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	内分泌①	ホルモンの作用、種類、発現メカニズムを学ぶ
2	内分泌②	ホルモンの分泌調節を学ぶ
3	内分泌③	下垂体・視床下部・甲状腺・副甲状腺のホルモンを学ぶ
4	内分泌④	副腎皮質・髓質・臍臓・性腺などのホルモンを学ぶ
5	筋と骨①	骨格筋の構造と機能を学ぶ
6	筋と骨②	骨格筋の収縮メカニズムを学ぶ
7	筋と骨③	筋紡錘・ゴルジ腱器官を学ぶ
8	筋と骨④	心筋・平滑筋と骨について学ぶ
9	神経系①	神経細胞の構造を学ぶ
10	神経系②	興奮の発生と伝導を学ぶ
11	神経系③	神経線維の種類を学ぶ
12	神経系④	シナプスについて学ぶ
13	末梢神経①	末梢神経の分類について学ぶ
14	末梢神経②	脳神経・脊髄神経を学ぶ
15	末梢神経③	交感神経・副交感神経を学ぶ

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	末梢神経④	神経伝達物質について学ぶ
17	中枢神経①	脊髄の構造と機能を学ぶ
18	中枢神経②	脊髄反射を学ぶ
19	中枢神経③	延髓・橋・中脳・視床・視床下部・小脳の構造と機能を学ぶ
20	中枢神経④	大脳皮質、睡眠、脳脊髄液、血液脳関門について学ぶ
21	感覚①	体性感覚、内臓感覚を学ぶ
22	感覚②	聴覚・平衡感覚を学ぶ
23	感覚③	視覚について学ぶ
24	感覚④	嗅覚・味覚について学ぶ
25	代謝と体温①	各栄養素の意義と代謝を学ぶ
26	代謝と体温②	体温の調節と発熱メカニズムを学ぶ
27	運動生理①	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源を学ぶ
28	運動生理②	運動に伴う全身の変化、トレーニングと老化について学ぶ
29	後期復習①	小テストを利用して後期の復習を行う
30	後期復習②	小テストを利用して後期の復習を行う
準備学習（予習復習） の 具体的な内容	教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。	
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input type="checkbox"/> 課題（%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版：医学書院	
参考書	消っして忘れない 生理学要点整理ノート（P.T.O.T必修シリーズ） 羊土社	
授業の留意点・備考	授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれる所以、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。	

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	ローテーション実習②	I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定】
17	ローテーション実習③	【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. スパイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定】
18		
19	ローテーション実習④	【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. スパイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定】
20		
21	ローテーション実習⑤	【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. スパイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定】
22		
23	ローテーション実習⑥	【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. スパイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定】
24		
25	K. 感覚検査	K. 2点識別域とその他の感覚検査
26		
27	L. カエルの解剖、講評	L. カエルの解剖、講評
28		
29		
30	総復習	
準備学習(予習復習) の 具体的な内容		授業前にテキストを読んで、内容を理解しておく
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input checked="" type="checkbox"/> レポート (60 %) <input type="checkbox"/> 課題 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他()
教科書		講師が準備する
参考書		フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 運動学実習 医歯薬出版 リハビリテーション運動生理学 メジカルビュー社
授業の留意点・備考		各テーマにふさわしい服装で参加する。 自分自身で考えて行動する。 グループの一員として他の構成員を気づかい、協力して、グループ全体の働きをより良くする。

科目名	運動生理学						担当教員	緒方 茂					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義	
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		地域リハビリテーションにおける介護予防事業において、地域高齢者への転倒予防教室や介護予防体操などの経験から、運動が及ぼす身体への影響や実際の運動への取り組み方について講義を行う事が出来る。											
授業概要		近年死因の第1位は、悪性新生物だが、それ以降の死因は、生活習慣病（動脈硬化性疾患）が主である。この生活習慣病に対して運動処方に基く身体運動は推奨される手段の一つであるが誤った方法は、身体に不利益をもたらす可能性がある。本科目は、運動処方の基礎理論を深め、運動による身体反応（運動生理学）を理解し、各疾患の運動療法へ繋げる。											
到達目標		運動に対する身体器官（筋・神経・循環・代謝・呼吸）の反応と変化を理解し、運動により身体が受ける影響を説明できるようになる。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	オリエンテーション				講義の進め方や受講時の注意点を理解する。								
2	筋の運動生理学①				筋収縮とエネルギー供給系について学ぶ								
3	筋の運動生理学②				筋線維の種類とその特徴について考える。								
4	筋の運動生理学③				筋収縮における神経の役割と収縮様式と筋力の関係について学ぶ。								
5	換気の運動生理学①				呼吸器系の構造と換気メカニクスについて学ぶ								
6	換気の運動生理学②				呼吸筋疲労および呼吸中枢と呼吸調整について学ぶ								
7	ガス交換の運動生理学①				ガス交換と呼吸代謝について理解する								
8	ガス交換の運動生理学②				呼吸代謝の指標と運動時の呼吸循環応答について学ぶ								
9	循環の運動生理学①				循環系の構造と心周期について考える								
10	循環の運動生理学②				一回拍出量・心拍数・心拍出量および心血管の機能的特性について学ぶ								
11	循環の運動生理学③				心血管の自律神経系の調節と血圧について学ぶ								
12	循環の運動生理学④				受直と運動による循環応答と最大酸素摂取量への影響因子を理解する。								
13	体温・栄養・内分泌の運動への関わり				外部環境及び運動と体温調節について学ぶ								
14	身体組成とトレーニング効果①				基本的な身体計測的指標とその測定方法について学ぶ								
15	身体組成とトレーニング効果②				体力の概念と体力トレーニングについて学ぶ								
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		予習は教科書に軽く目を通しておき、講義の資料および個人の学習ノートを用いて復習を行なう。											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (10 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		リハビリテーション運動生理学											
参考書		入門運動生理学 基礎運動学第6版補訂 その他、図書室生理学教科書を参照											
授業の留意点・備考		1年次の生理・解剖・運動学を再度学習するつもりで、さらに理解を深めていく。											

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	運動学②	上肢、下肢の運動学について学ぶ。
17	運動学③	姿勢および歩行について学ぶ
18	運動学④	バイオメカニクス、椅子からの立ち上がり、筋の収縮様式、学習運動について学ぶ。
19	人間発達学・小児科学	小児疾患および小児の運動発達について学ぶ。
20	内科学①	呼吸器疾患・循環器疾患について学ぶ。
21	内科学②	消化器疾患、代謝内分泌疾患について学ぶ。
22	臨床神経医学①	高次脳機能障害、脳・神経の病態生理を学ぶ。
23	臨床神経医学②	脳血管障害、認知症、自己免疫疾患、筋疾患を学ぶ。
24	臨床心理学	防衛機制、移転記憶、発達心理、心理テストを学習する。
25	精神医学①	統合失調症、気分障害、薬物療法について学ぶ。
26	精神医学②	神経症性障害、小児の精神医学、転換、パーソナリティ障害について学習する。
27	整形外科学①	骨折、脱臼について学ぶ。
28	整形外科学②	末梢神経障害、脊髄・脊椎疾患及び損傷について学ぶ。
29	整形外科学③	変形性関節症、小児整形外科、切断について学ぶ。
30	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論、リスク管理感染症について学ぶ。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		日々の国家試験過去問やリハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（90%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input checked="" type="checkbox"/> 課題（10%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input checked="" type="checkbox"/> その他（）
教科書		クエスチョンバンク理学療法士作業療法士国家試験問題解説2021共通問題
参考書		その他、基礎系科目の教科書
授業の留意点・備考		自分ひとりでの勉強ではなく、グループ学習を通して国家試験合格率の向上に努める。

科目名	内科学					担当教員	山下 昌洋		
-----	-----	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義		
区分	専門基礎分野	教育内容	疾患と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修			
担当教員の実務経験		内科臨床と係った経験を活かし、地域リハビリテーションの実務に役立つ講義を行うことができる。											
授業概要		各症候、疾病がどのようにして発生するかという内科的病態生理を基礎として、要点はプリント図表に入れ、講義の習得が容易となるように配慮する。											
到達目標		①国家試験の過去問題（10年程度）を十分に理解し、トレーニングを行い、思考力を育てる。②教科書、講師からの資料を研習し、グループワークを行う場合には、積極的に参加し意見を発表する。											

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	呼吸器疾患（I） 風邪症候群、その他	風邪を理解するために、症状の分析、原因を知り、診断する思考力を学ぶ。
2	呼吸器疾患（II） 閉塞性換気障害、拘束性換気障害	呼吸器の解剖、病理を復習し、代表的な疾患について学習する。
3	循環器（I）	循環器の解剖、病理を理解する。浮腫の診断ができる。
4	循環器（II）	虚血性心疾患、左心不全、右心不全を理解する。
5	循環器（III）	高血圧、末梢循環について学ぶ。
6	糖尿病	糖尿病とは、合併症、低血糖症状を理解する。
7	消化器疾患	主な疾患について学ぶ。
8	肝疾患	ウイルス肝炎、肝硬変症、門脈硬直症その他について学ぶ。
9	内分泌	内分泌異常について学ぶ。
10	膠原病	膠原病、自己免疫疾患などについて学ぶ。
11	メタボリックとフレイル	メタボリックシンドローム、内臓脂肪と皮下脂肪、高齢者に見られるフレイル・サルコペニアについて学ぶ。
12	感染症	感染症、院内感染対策、標準予防法について学ぶ。
13	老年症候群、廃用症候群	高齢者の特有な疾患の内部障害を理解し、リハビリの臨床に役立たせる。
14	その他の内科疾患、腎不全など	主な疾患について学ぶ。
15	まとめ、復習	期末試験の対応について学ぶ。

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	レポート（小テスト）を各テーマ毎に提出する。復習予習することで正確な解答を提出し、問題を解く思考力を育てる。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（90%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（10%） <input type="checkbox"/> 課題（ %） <input type="checkbox"/> 発表（ %） <input type="checkbox"/> その他（ ）
教科書	PT・OT国家試験 専門基礎分野 臨床医学 2020：医歯薬出版
参考書	①病気がみえる vol.1～6、vol.8：メディックメディア ②クエスチョンバンクPT・OT国家試験問題解説2020：メディックメディア
授業の留意点・備考	内科学は単なる記憶の繰り返しではなく、症状を分析し、病理・解剖学などの知識を元に診断する。思考力が必要であることを理解する。

科目名	解剖学演習 I						担当教員	宮崎 慎二					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習	
区分	専門分野	教育内容		基礎理学療法学					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験													
授業概要		理学療法を学習するうえで重要な人体の構造について1年次に教科書を通して学んできたが、これまで学習した解剖学をより深く理解するために、体表面からの観察、触診しながら、骨全体の機能的構造を学習する。											
到達目標		骨の形態的特徴から各部分の機能的役割を説明することができる。スムーズな手順で正確にランドマークが取れる。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	オリエンテーション				骨のランドマークについての骨標本を用いて触診の基本と基礎知識について学習し、演習する。								
2	骨盤～股関節周囲①				骨盤周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
3	骨盤～股関節周囲②				骨盤の筋の特徴と触診								
4	膝関節周囲①				膝関節周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
5	膝関節周囲②				膝関節周囲の筋の特徴と触診								
6	足関節周囲				足関節周囲のランドマーク、骨学的特徴の触診								
7	まとめ				骨盤下肢のまとめ								
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習(予習復習)の具体的な内容		1年次に学んだ解剖学を復習し、骨の形態的特徴や構造を理解しておく。											
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (20 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他											
教科書		青木隆明監修 機能解剖学的触診技術（下肢・体幹） メジカルビュー											
参考書		必要に応じて授業中に指示する。											
授業の留意点・備考		骨標本を使用するので、参考にしながら演習すること。演習は同じ人ばかりでなく複数の学生に対して行うこと。											

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	正常歩行	歩行の運動パターン
17	歩行の評価	動作メカニズムの評価
18	異常歩行～運動器疾患	運動器疾患における逸脱・代償動作
19	異常歩行～運動器疾患	運動器疾患における逸脱・代償動作
20	異常歩行～神経疾患	神経疾患における逸脱・代償動作
21	異常歩行～神経疾患	神経疾患における逸脱・代償動作
22	異常動作分析（症例課題）	実技：異常動作分析
23	異常動作分析（症例課題）	実技：異常動作分析
24	異常動作分析（症例課題）	実技：異常動作分析
25	異常動作分析（症例課題）	実技：異常動作分析
26	臨床動作分析検討会（発表会）	実技：動作分析発表会
27	臨床動作分析検討会（発表会）	実技：動作分析発表会
28	臨床動作分析検討会（発表会）	実技：動作分析発表会
29	臨床動作分析検討会（発表会）	実技：動作分析発表会
30	まとめ	まとめ
準備学習(予習復習)の具体的な内容		動作分析には、観察力が必要であり日頃から観る練習をしておくこと
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（50%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（25%） <input checked="" type="checkbox"/> 課題（25%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）
教科書		・観察による歩行分析 ・動作分析臨床活用講座 ・症例動作分析
参考書		・臨床実践 動きのとらえかた ・The Center of the Body ・姿勢アセスメント ・歩行分析ワークブック
授業の留意点・備考		・動作分析を行うために、準備物としてパソコン、USB、動画が撮影できるもの（携帯可※情報流出は絶対しないように）を使用することがある（事前に連絡する）。 ・姿勢アライメント評価を行う際は軽装の準備（Tシャツ・短パン等）を着用のこと。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	反射検査②	深部腱反射での検査器具の取り扱いと各反射検査の方法、検査結果に対する意義を学習し演習する。
17	反射検査③	表在反射での検査器具の取り扱いと各反射検査の方法、検査結果に対する意義を学習し演習する。
18	反射検査④	病的反射での検査器具の説明と各反射検査の方法、検査結果に対する意義を学習し演習する。
19	感覚検査①	感覚検査の意義と目的を理解し、知覚の分類、感覚の伝導路(解剖・生理)を学習する。
20	感覚検査②	表在感覚検査で使用する検査器具の取り扱いと感覚入力の仕方を学習し、疾患に応じた検査方法を演習する。
21	感覚検査③	深部感覚検査で使用する検査器具の取り扱いと感覚入力の仕方を学習し、疾患に応じた検査方法を演習する。
22	感覚検査④	複合感覚検査で使用する検査器具の取り扱いと感覚入力の仕方を学習し、疾患に応じた検査方法を演習する。
23	疼痛検査①	痛みの種類についての分類、受容器や伝導路、検査上の注意点について学習する。
24	疼痛検査②	各種痛みの評価ツールであるVAS、NRS等を演習を通して学習する。
25	疼痛検査③	疼痛検査の手順を学習し、問診から触診、運動検査など痛みの評価手順について演習する。
26	協調性検査①	協調性検査の意義目的を理解し、運動失調の分類及び原因疾患と、小脳性失調と脊髄性失調の鑑別について学習する。
27	協調性検査②	協調性検査の代表的な指鼻試験・鼻指鼻試験・膝蹠試験等を、検査測定実施時の注意事項を交え学習し演習する。
28	総合練習	各検査法の導入から問診への進め方を学習し、演習を通して理解を深める。
29	総合練習	各検査法の導入から問診への進め方を学習し、演習を通して理解を深める。
30	総合練習	各検査法の導入から問診への進め方を学習し、演習を通して理解を深める。
準備学習(予習復習) の 具体的な内容		検査の意義を速やかに理解できるよう、解剖学、生理学を見直して臨むこと。学生同士で練習し復習すること。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験(60%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験(40%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> レポート(%) <input type="checkbox"/> 課題(%) <input type="checkbox"/> 発表(%) <input type="checkbox"/> その他()
教科書		理学療法評価学(金原出版) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)
参考書		なし
授業の留意点・備考		実技のデモンストレーションを行う際は、積極的に被験者になること。

科目名	理学療法評価学Ⅱ	担当教員	山本 英夫
-----	----------	------	-------

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーションにてシラバスを使用し授業内容の説明する。今後の授業の方向性や進め方を理解する。
2	徒手筋力テスト（MMT）：総論①	MMTの成り立ちや歴史について学習する。筋力検査の原理、段階づけについて学習し基本的な考え方とMMTの方法について演習する。
3	徒手筋力テスト（MMT）：総論②	MMTの代償運動について、筋力検査の妥当性と限界について学習する。
4	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢①	肩甲帯のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し、演習する。
5	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢②	肩甲帯のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
6	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢③	肩関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
7	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢④	肩関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
8	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢⑤	肘関節・前腕のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
9	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢⑥	手関節・手指のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
10	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢①	股関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
11	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢②	股関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
12	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢③	膝関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
13	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢④	足関節・足部・足趾のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
14	徒手筋力テスト（MMT）各論：体幹①	頭部・頸部のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。
15	徒手筋力テスト（MMT）各論：体幹②	体幹のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	片麻痺機能検査①	片麻痺機能検査について、片麻痺の理解を深め、検査の意義・目的について学習する。
17	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査 (Brunnstrom recovery stage) の基本的な概念について学習し、検査方法を演習する。
18	片麻痺機能検査③	片麻痺機能検査 (Brunnstrom recovery stage) の基本的な概念について学習し、検査方法を演習する。
19	片麻痺機能検査④	その他片麻痺機能検査 (SIAS、12段階片麻痺機能テスト) について学習し、演習する。
20	筋緊張検査①	筋緊張異常について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。
21	筋緊張検査②	筋緊張検査 (検査方法・Ashworthscale) について学習し、演習する。
22	脳神経検査①	脳神経障害について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。
23	脳神経検査②	脳神経検査の方法について学習し、演習する。
24	高次脳機能検査①	高次脳機能障害について、失語症、失行症を中心に責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
25	高次脳機能検査②	高次脳機能障害について失認症の責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
26	高次脳機能検査③	高次脳機能障害についての責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
27	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
28	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
29	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
30	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		検査の意義を速やかに理解できるよう、解剖学、生理学を見直して臨むこと。学生同士で練習し復習すること。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他()	
教科書	新徒手筋力検査法 (協同医書出版社) 理学療法評価法 (神陵文庫) ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)	
参考書	なし	
授業の留意点・備考	実技のデモンストレーションを行う際は、積極的に被験者になること。	

科目名	検査・測定実習						担当教員	佐藤 健/臨床実集指導者					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	90	授業形態	演習	
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学						選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士免許を有する者 検査・測定実習における実習生指導が認められている者 											
授業概要		実習期間として設けられた2週間の中で、担当教員となる実習指導者の下、実際の症例患者に対して机上で学んだ測定技術を実施し、導き出された諸問題の原因について考える。											
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 医療や福祉に関わる者として常に責任ある対応を心かける。 実際の症例に対してリスクを考慮しながら安全かつ円滑に測定を実施することができる。 リハビリテーション医療における理学療法士の役割を学び、他職種との関わりを通して必要な情報を収集することができる。 											
授業計画													
回	テーマ			授業内容									
1	症例患者に対する理学療法検査 および測定の実施			令和2年11月30日（月）～12月12日（土）までの2週間									
2				当校の臨床実習施設で実施									
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習（予習復習） の 具体的な内容													
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験（ %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 課題（ %） <input type="checkbox"/> 発表（ %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（ %）											
教科書													
参考書													
授業の留意点・備考													

科目名	運動療法Ⅰ						担当教員	佐藤 健									
学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態							
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学				選択・必修	必修									
担当教員の実務経験	様々な運動療法技術を修了し、現職者を対象とした講習会等でも数多くの技術指導に関わった経験を活かして実践に即した運動療法について講義・演習を行うことができる。																
授業概要	臨床実習や資格取得後の実務を視野に入れて、身体における様々な諸問題（症候・障害）を理解し、その解決に必要となる専門的知識と具体的な介入方法について学ぶ。																
到達目標	理学療法士における中核的な治療手段である運動療法の本質的役割を理解し、臨床実習や資格取得後の実務に繋がる基本的知識と技術を身につける。また、対象となる身体の諸問題（症候及び障害）を理解し、それぞれに対応する運動療法について根拠を持って講じることができる。																
授業計画																	
回	テーマ			授業内容													
1	オリエンテーション			リハビリテーションにおける理学療法士の役割とその治療対象について学ぶ													
2	運動療法総論①			運動療法の定義・目的・対象について学ぶ													
3	運動療法総論②			運動療法で使用する物品および機器について学ぶ													
4	関節可動域障害と運動療法①			関節の基本構造と臨床での諸問題（拘縮・強直）について学ぶ													
5	関節可動域障害と運動療法②			関節内で起こる運動について学ぶ													
6	関節可動域障害と運動療法③			上肢における基本的な関節可動域運動を演習する													
7	関節可動域障害と運動療法④			下肢における基本的な関節可動域運動を演習する													
8	関節可動域障害と運動療法⑤			症例に対する関節可動域改善を目的としたアプローチを検討し演習する													
9	筋力（筋張力）低下と運動療法①			筋力増強に必要な周辺知識（筋張力と筋持久力の違い・筋の収縮様式など）について学ぶ													
10	筋力（筋張力）低下と運動療法②			筋力増強に必要な周辺知識（特性・原則など）について学ぶ													
11	筋力（筋張力）低下と運動療法③			上肢における基本的な筋力増強運動を演習する													
12	筋力（筋張力）低下と運動療法④			下肢における基本的な筋力増強運動を演習する													
13	筋力（筋張力）低下と運動療法⑤			症例に対する筋力増強を目的としたアプローチを検討し演習する													
14	バランス障害と運動療法①			バランスの定義や力学的解釈を理解しバランスに影響する因子を学習する													
15	バランス障害と運動療法②			バランスに関係する身体要素について学習する													

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	バランス機能低下と運動療法③	身体におけるバランス戦略と基本的なバランスエクササイズを演習する
17	バランス機能低下と運動療法④	症例に対するバランス改善を目的としたアプローチを検討し演習する
18	協調性障害と運動療法①	協調性獲得に必要な運動制御とその神経機構について学ぶ
19	協調性障害と運動療法②	協調性改善に求められる原則的な関わり方と留意点を学ぶ
20	協調性障害と運動療法③	運動学習の基本について学ぶ
21	協調性障害と運動療法④	協調性改善のための関わりについて学ぶ
22	協調性障害と運動療法④	症例に対する協調性改善を目的としたアプローチを検討し演習する
23	加齢と運動療法①	加齢に伴う身体症候の特徴とその関わり方について学ぶ
24	加齢と運動療法②	加齢に伴う身体症候改善に対するアプローチを検討し演習する
25	循環器障害と運動療法①	循環器障害の障害像について学ぶ
26	循環器障害と運動療法②	循環器障害を目的とした運動療法と実施上のリスク管理を学ぶ
27	呼吸器障害と運動療法①	呼吸器障害の障害像について学ぶ
28	呼吸器障害と運動療法②	呼吸機能改善を目的とした運動療法と実施上のリスク管理を学ぶ
29	代謝障害と運動療法①	代謝障害の障害像について学ぶ
30	代謝障害と運動療法②	代謝機能改善を目的とした運動療法と実施上のリスク管理を学ぶ
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他()
教科書		・ Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 (メジカルビュー社) ・ 最新運動療法大全 I 基礎編 第6版 (ガイアブックス)
参考書		
授業の留意点・備考		本講義では現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）や態度での受講を基本とする。問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	身体器官別アプローチⅡ 筋⑦	固有受容性神経筋促痛法 (PNF) について学び演習する
17	身体器官別アプローチⅡ 筋⑧	理解のポイントを整理し項目における学習内容の振り返りを行なう
18	身体器官別アプローチⅢ 関節①	関節内運動 (Joint Play) における操作について演習する
19	身体器官別アプローチⅢ 関節②	関節モビライゼーション (Joint Mobilization) について学習する
20	身体器官別アプローチⅢ 関節③	関節モビライゼーション (上肢) について学び演習する
21	身体器官別アプローチⅢ 関節④	関節モビライゼーション (下肢) について学び演習する
22	身体器官別アプローチⅢ 関節⑤	理解のポイントを整理し項目における学習内容の振り返りを行なう
23	身体器官別アプローチⅢ 関節⑥	関節機能障害 (Joint Dysfunction) について学習する
24	身体器官別アプローチⅢ 関節⑦	体幹の関節機能障害に対する治療について学び演習する
25	身体器官別アプローチⅢ 関節⑧	上肢および下肢の関節機能障害に対する治療について学び演習する
26	身体器官別アプローチⅢ 関節⑨	理解のポイントを整理し項目における学習内容の振り返りを行なう
27	治療体操および運動①	Williams体操, McKenzie体操, Kraus-Weber体操について学び演習する
28	治療体操および運動②	Bohler体操, Klapp運動, Coddman体操について学び演習する
29	治療体操および運動③	Frenkel体操, 骨盤底筋体操, Buerger-Allen体操について学び演習する
30	治療体操および運動④	理解のポイントを整理し項目における学習内容の振り返りを行なう
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (10 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他()
教科書		・Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 (メジカルビュー社) ・最新運動療法大全 I 基礎編 第6版 (ガイアブックス)
参考書		
授業の留意点・備考		本講義では現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）や態度での受講を基本とする。問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	小児疾患の理学療法①	小児の発達検査（遠城寺式、デンバー式）について学習する。
17	小児疾患の理学療法②	脳性麻痺（痙攣型、アテトーゼ型）の概要と分類、評価（PEDI、GMFCS）について学習する。
18	小児疾患の理学療法③	脳性麻痺の理学療法について学習する。
19	小児疾患の理学療法④	小児整形外科疾患：骨端症（ペルテス病、Osgood Schlatter病など）について学習する。
20	小児疾患の理学療法⑤	小児整形外科疾患：発育性股関節形成不全、二分脊椎、内反足
21	がんリハビリテーション①	がんの基礎とがんリハビリテーションの基礎知識について学習する。
22	がんリハビリテーション②	病期別のリハビリテーションについて学習する。（周術期、化学・放射線療法中や後、緩和ケア）
23	がんリハビリテーション③	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		速やかに理解できるよう、疾患の概要とそれに関わる解剖学、生理学の基礎知識を予習して臨むこと。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（30%） <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験（10%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input checked="" type="checkbox"/> 課題（20%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）
教科書		脊髄損傷マニュアル（医学書院） その他は随時資料配布
参考書		プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）
授業の留意点・備考		疾患の病態、症状から適切な理学療法を選択するまでのつながりを理解すること。

科目名	その他疾患理学療法					担当教員	上田 恵理奈		
-----	-----------	--	--	--	--	------	--------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義								
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験	小児における訪問リハビリテーションにおいて、小児リハに加え呼吸理学療法や気道クリアランスに特化し、小児疾患における様々な対応について講義演習を行うことができる。																		
授業概要	人工呼吸に関する医療技術が進歩し、小児領域においても、継続した在宅人工呼吸管理や医療ケア児が増えている。ここでは慢性呼吸不全を有する小児疾患概念から小児呼吸理学療法について基礎的な考えを学ぶ。																		
到達目標	小児の呼吸理学療法の基礎となる神経筋疾患の呼吸不全の特徴や呼吸機能評価～気道クリアランスについて説明できる。																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	熊本における小児在宅人工呼吸の実際	熊本における医療的ケア児の実際や療育・学校含め、障がい児が成長し障がい者となる過程において理学療法士としての関わりを学ぶ。
2	NPPVとIPPVの違い、呼吸器を使用した生活について	実際の例や教科書（NPPVのすべて）を通じ呼吸器を使用した生活に触れ、障がいをもって生まれ、生活するという事を考える機会をもつ。
3	人工呼吸器について	人工呼吸器の目的や構造・設定について理解し、人工呼吸器を体験する。
4	神経筋疾患の呼吸ケア	非侵襲的人工呼吸についてのグループ演習を通じ自ら学ぶ。
5	小児呼吸器疾患に対する気道クリアランス	気道クリアランスの理論を理解し、演習にて実際に体験する。
6	グループ演習～発表	呼吸ケアについて理解して説明することができる。
7	グループ演習～発表	呼吸ケアについて理解して説明することができる。
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習(予習復習) の 具体的な内容		
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他()	
教科書	JJNスペシャル NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)のすべて これから的人工呼吸:医学書院	
参考書		
授業の留意点・備考		

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	運動器障害患者に対するADL指導⑥	腰痛患者へのリーフレット作成を通してADL指導を演習する
17	運動器障害患者に対するADL指導⑦	腰痛患者へのリーフレット作成内容を発表し演習する
18	神経難病患者に対するADL指導①	パーキンソン病（PD）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
19	神経難病患者に対するADL指導②	パーキンソン病（PD）患者におけるADL指導を演習する
20	神経難病患者に対するADL指導③	脊髄小脳変性症（SCD）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
21	神経難病患者に対するADL指導④	脊髄小脳変性症（SCD）患者におけるADL指導を演習する
22	神経難病患者に対するADL指導⑤	筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
23	神経難病患者に対するADL指導⑥	筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者におけるADL指導を演習する
24	神経難病患者に対するADL指導⑦	筋ジストロフィー（MD）患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
25	神経難病患者に対するADL指導⑧	筋ジストロフィー（MD）患者・児におけるADL指導を演習する
26	神経難病患者に対するADL指導⑨	脳性麻痺（CP）患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
27	神経難病患者に対するADL指導⑩	脳性麻痺（CP）患者・児におけるADL指導を演習する
28	内部障害患者に対するADL指導①	循環器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
29	内部障害患者に対するADL指導②	呼吸器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
30	内部障害患者に対するADL指導③	代謝障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
準備学習(予習復習)の具体的な内容	教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。	
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（80%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input checked="" type="checkbox"/> 課題（10%） <input checked="" type="checkbox"/> 発表（10%） <input checked="" type="checkbox"/> その他（）	
教科書	・PT・OTビジュアルテキストADL 第1版：羊土社	
参考書	・標準理学療法学 日常生活活動・生活環境学 第4版：医学書院	
授業の留意点・備考	学習内容に対して自分なりの考えを持ち、能動的かつ積極的な学習姿勢で他者と分かち合いながら相互的に理解していくように努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。	

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	温熱療法のまとめ	温熱療法のまとめ
17	寒冷療法	寒冷の生理学
18	寒冷療法	寒冷療法の種類、効果
19	寒冷療法	寒冷療法の実施手順
20	寒冷療法	寒冷療法の実際
21	水治療法	水治療法の定義、作用・効果
22	水治療法	気泡浴・渦流浴・交代浴・水中運動療法
23	グループでの演習	温熱療法、寒冷療法、水治療法の実技
24	グループでの演習	温熱療法、寒冷療法、水治療法の実技
25	グループでの演習	温熱療法、寒冷療法、水治療法の実技
26	グループでの演習	温熱療法、寒冷療法、水治療法の実技
27	グループでの演習	温熱療法、寒冷療法、水治療法の実技
28	グループでの演習	温熱療法、寒冷療法、水治療法の実技
29	レポート作成	グループでの検討、レポート作成
30	温熱と寒冷のまとめ	まとめ
準備学習(予習復習)の具体的な内容		物理療法を実施する場合、生体内でどのような変化が起こるか理解することが大切であり、生理学の知識が必要。生理学の知識の整理、復習を行うこと
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (50 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他()
教科書		吉田英樹編集 理学療法学テキスト 物理療法学: MEDICALVIEW
参考書		綱本和、菅原憲一編集 標準理学療法学専門分野 物理療法学 医学書院 庄本康治編集 エビデンスから身につける物理療法 羊土社
授業の留意点・備考		各種物理療法の実議時は軽装を準備すること

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	電気刺激療法実技	電気刺激療法実技
17	光線療法	概論
18	光線療法	赤外線療法
19	光線療法	紫外線療法
20	光線療法	LASERその他
21	光線療法実技	光線療法の操作方法
22	光線療法実技	光線療法実技
23	マッサージ療法	マッサージ療法の概要
24	マッサージ療法	マッサージ実技
25	牽引療法	牽引療法の目的、効果、操作方法
26	牽引療法	牽引療法実技
27	疾患別物理療法	疾患別物理療法
28	疾患別物理療法	疾患別物理療法
29	疾患別物理療法	疾患別物理療法
30	まとめ	まとめ
準備学習(予習復習)の具体的な内容		物理療法を実施する場合、生体内でどのような変化が起こるか理解することが大切であり、生理学の知識が必要。生理学の知識の整理、復習を行うこと
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (50 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他()
教科書		吉田英樹編集 理学療法学テキスト 物理療法学: MEDICALVIEW
参考書		綱本和、菅原憲一編集 標準理学療法学専門分野 物理療法学 医学書院 庄本康治編集 エビデンスから身につける物理療法 羊土社
授業の留意点・備考		各種物理療法の実議時は軽装を準備すること

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	整形外科学	熱傷、腰痛症、頸部・脊椎の障害
17	整形外科学	膝関節の障害（変形性関節症含む）
18	整形外科学	大腿骨骨折
19	整形外科学	肩関節・上肢の障害
20	整形外科学	整形外科的検査法
21	脳血管障害	脳血管障害
22	脳血管障害	高次脳機能障害
23	脳血管障害	立位保持・歩行訓練
24	脳血管障害	Pusher現象・肩手症候群
25	神経筋障害	パーキンソン病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症
26	神経筋疾患	多発性筋炎、筋ジストロフィー
27	補装具療法	下肢装具・上肢装具
28	ADL	ADLの概念、ADLの評価
29	ADL	FIM, Barthel Index, ICF
30	理学療法概論	インフォームドコンセント、研究法、理学療法士法
準備学習(予習復習)の具体的な内容		日々の国家試験過去問やリハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (10 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他()
教科書		クエスチョンバンク理学療法士作業療法士国家試験問題解説2021専門問題
参考書		その他、専門系科目の教科書
授業の留意点・備考		自分ひとりでの勉強ではなく、グループ学習を通して国家試験合格率の向上に努める。

科目名	生活環境学Ⅰ						担当教員	緒方 茂					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習	
区分	専門分野	教育内容		地域理学療法学					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		介護老人保健施設や訪問リハビリテーションにおける臨床経験を基に、生活環境が地域の障がい者や高齢者に与える影響について講義・演習を行う事が出来る											
授業概要		障がい者や高齢者の生活環境（日常生活）の中にどのような問題があるのか、理学療法士として、人的環境、社会的環境、物理的環境の多面的な側面から考え、考察を行なっていく											
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 生活環境上の評価項目を挙げることができる。 生活環境上の問題点を挙げることができる。 生活環境上の問題点に対する解決方法を考えることができる。 											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	オリエンテーション				シラバスを用いて講義の流れや進め方を説明し、生活環境学の概要を一通り理解する。								
2	生活環境学の概念①				生活環境の定義を確認し、身近な自分自身の生活環境を考えてもらうために、自分の家の間取りを書いてもらう。								
3	生活環境学の概念②				家屋の間取りを参考に簡単な発表を行い、様々な生活環境があることを理解する。また生活環境の種類と分類を学ぶ。								
4	生活環境学の概念③				障がい者や高齢者と生活環境の影響について学ぶ。								
5	生活環境学の環境デザイン				バリアフリーデザインとユニバーサルデザインから環境へのアプローチを学ぶ。								
6	生活環境学の評価②				生活環境の評価の流れを確認し学ぶ。実際に生活環境の評価を身近なもので行い、危険因子などを学ぶ。								
7	生活環境と手指衛生①				感染症の基礎的な知識を学び手指衛生につなげていく。								
8	生活環境と手指衛生②				手指衛生の臨床的重要性を学び、実際の手指衛生の演習を通じてそれを身につけていく。								
9	生活環境学と福祉用具①				福祉用具の定義からその種類と分類を学び理解を深める。								
10	生活環境学と福祉用具②				福祉用具の一つで、臨床では頻繁に使用する車椅子の名称や使い方を学ぶ習得する。								
11	生活環境学と福祉用具①				福祉用具の一つで、臨床では頻繁に使用する歩行補助用具(杖や歩行器など)の名称や使い方を学ぶ習得する。								
12	公共環境車椅子体験①				学校周辺で車椅子を使用し、スロープの勾配や段差を体験する。								
13	公共環境車椅子体験②				学校周辺で車椅子を使用し、スロープの勾配や段差を体験する。								
14	公共環境車椅子体験③				これらの体験の発表用資料を作成する。								
15	公共環境車椅子体験④				各班において発表を行い公共環境を共有し、セラピストの環境を見る視点を学ぶ。								
準備学習（予習復習） の 具体的な内容	予習は求めないが、復習は講義が終わった後教科書やノート配布資料等で必ず確認を行なう。												
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (10 %) <input type="checkbox"/> その他 ()												
教科書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 (医学書院)												
参考書	配布資料												
授業の留意点・備考	不明な点はそのままにせず積極的に質問して貴重な講義を有効活用すること。また、グループワークを行う場合は、ディスカッション等に積極的に参加すること。												

科目名	理学療法見学実習							担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科教員				
学科	理学療法学科		年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	45	授業形態	実習	
区分	専門分野	教育内容		臨床実習					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		理学療法士の免許を有し、見学実習の指導を行う資格がある者。											
授業概要		当校における1年次の実習は、早期臨床体験実習と同じ位置づけで行い、養成校入学時の漠然とした理学療法士になるとという目標から、具体的な理学療法士像を構築し明確な目標を持つことを目指す。											
到達目標		将来理学療法士となる上での資質の向上を図ることを目的としている。資質とは、認知・情意・精神運動の3つの領域における適正と考えている。ただし、今回の実習においては、認知領域および情意領域の向上を図ることとする。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	臨床理学療法の見学				令和2年8月31日（月）～9月5日（土）までの9週間								
2					各々の臨床実習施設で実施する								
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習（予習復習） の 具体的な内容													
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (100 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書													
参考書													
授業の留意点・備考													

科目名	短期実習						担当教員	臨床実習指導者					
学科	理学療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	3	時数	135	授業形態	実習	
区分	専門分野	教育内容		臨床実習					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験3年以上、理学療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。											
授業概要		各種理学療法適応疾患における実際を理解し、認知領域・情意領域・精神運動領域それぞれの向上を図り、長期実習並びに卒業後の実務へと繋げる。											
到達目標		各種疾患の病態を理解し必要な理学療法評価を行うことができる。また理学療法の対象となる問題点を抽出し、目標の設定や対象に適切な理学療法プログラムの立案ができる。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1					短期実習 令和3年1月12日～令和3年1月30日								
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		解剖学、運動学、生理学はもとより、疾患の基礎知識や検査測定の意義、目的の復習を行う。また、基本的な検査測定手技の練習を十分に行うこと。											
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (100 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他（総合的に判断する）											
教科書		必要なものを準備すること。											
参考書		必要なものを準備すること。											
授業の留意点・備考		積極的に学習ならびに実習に取り組むこと。対象者に感謝の気持ちを持って接すること。											

科目名	長期実習							担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科全教員				
学科	理学療法学科		年次	4	開講期	通年	単位数	18	時数	810	授業形態	実習	
区分	専門分野	教育内容		臨床実習						選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験3年以上、理学療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。											
授業概要		臨床実習指導者の指導のもと、評価から治療および記録・報告などの一連の理学療法業務を経験し修得するとともに、包括的リハビリテーションにおける理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに、今後進むべき方向性や研究テーマを考える											
到達目標		臨床実習指導者の指導を受けながら、現場のスケジュールに従って行動し、理学療法業務全般を経験する。 臨床の現場で対象者の評価、治療計画立案、具体的治療を実践する。 対象者から得られた情報など必要に応じて記録・報告する。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8					第Ⅰ期臨床実習 令和2年5月7日～7月15日								
9					第Ⅱ期臨床実習 令和2年7月27日～9月19日								
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習(予習復習)の具体的な内容													
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験(%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> レポート(%) <input type="checkbox"/> 課題(%) <input type="checkbox"/> 発表(%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 OSCl, SVによる評価、発表等総合的に判断											
教科書													
参考書													
授業の留意点・備考													